

ともよろし エホバ曰たをひけるに汝の勞をく之人を生育する此の一夜に生じて一夜に亡し驅を惜めり
 として十二萬餘の右左を辨へざる者と許多の家畜とあるこの大なる府をこそをわれ惜まざらんや

一節
 千四百四十五
 千四百四十三

第二章

エホバの王ヨラムアハズおよびヒセキヤの代おエレム人ミカお臨めるニホハの言是すや
 サマリヤとエルサレムの事につきて彼が示されたる者なり 舊民よ聽け地どうの中のものよ耳を傾けよ主
 エホバが汝らに對ひて證を立たせんとす即ち主の聖應より之を立たせよとて 視よエホバの處より出て
 くだり地の高處を踏たません 山に彼の下の裂け谷に裂けたり火の前なる蟻のごとく 坡を流るく水の
 ごとし 是みかヤコブの家の罪のゆゑなり、ヤコブの徳と何かサマリヤにあらさ
 や、ユダの崇仰どの何か、エルサレムにあらさや 是故に我サマリヤを野の石堆とあし葡萄を植る處と爲
 し又その石を谷に投おとすの基を露さん 右の石像のみ亦碎かれ、右の獲たる價金のみ亦火に焼かれ
 たり 我の價金をとどく 驢たんの後妓女の價金よりこれを積たれば是れはまた驢りて妓女の價金となる
 べし、我これのために哭き叫ぶ衣を脱ぎ裸體にて歩行ん山火のごとくに雲を眺鳥のごとくに啼ん
 サマリヤの傷り醫すべからざる者にてすにニダに至り我民の門エルサレムをよまてよべり 何かに傳
 へるあかれ泣きけふ勿れ、サマリヤにて我塵の中に輾びたり サレムに住る者よ汝ら裸にかり辱を
 蒙りて進みゆけ、サマリヤに住る者よ敢て出ず、サマリヤの哀哭によりて汝らに立處を得ず、サマリヤに
 住る者よ己の幸福につきて思ひなやび、其の災禍エホバより出てエルサレムの門に臨めばなり 何かに傳
 へる者よ馬に車をつなげ、ラキエの女の罪の根本なりイスラエルの徳に汝の中を見ゆ 此の
 故に汝サレムに離別の餽物を與へよ、アケシヤの家々ハイスラエルの王等おかけること人を欺く
 深川のごとくかゝるべし、サレムにすめる者よ我また汝の地を獲べき者を汝に携へ往べしイスラエルの

千四百四十六
 千四百四十七
 千四百四十八
 千四百四十九
 千四百五十
 千四百五十一
 千四百五十二
 千四百五十三
 千四百五十四
 千四百五十五
 千四百五十六
 千四百五十七
 千四百五十八
 千四百五十九
 千四百六十
 千四百六十一
 千四百六十二
 千四百六十三
 千四百六十四
 千四百六十五
 千四百六十六
 千四百六十七
 千四百六十八
 千四百六十九
 千四百七十
 千四百七十一
 千四百七十二
 千四百七十三
 千四百七十四
 千四百七十五
 千四百七十六
 千四百七十七
 千四百七十八
 千四百七十九
 千四百八十
 千四百八十一
 千四百八十二
 千四百八十三
 千四百八十四
 千四百八十五
 千四百八十六
 千四百八十七
 千四百八十八
 千四百八十九
 千四百九十
 千四百九十一
 千四百九十二
 千四百九十三
 千四百九十四
 千四百九十五
 千四百九十六
 千四百九十七
 千四百九十八
 千四百九十九
 千五百

